2022　　年　3　月　25　日

経済・政治研究所長　殿

コンピュータ化によるパラダイム変化研究班

主　幹　　宗岡　徹

研 究 班 活 動 報 告 書

2021　年度コンピュータ化によるパラダイム変化研究班の研究活動結果を、次のとおり報告いたします。

研究テーマ		コンピュータ化によるパラダイム変化とその対応
研究成果の概要及び活動報告	学会･研究会参加、発表および講演	○産業セミナー（第 249 回） 2021 年 10 月 23 日 13:00～16:10、at 関西大学以文館 4 階セミナースペース ・高橋秀彰（研究員・関西大学外国語学部教授） 「自動翻訳機と中上級レベルの英語学習者のパーフォーマンス比較」 ・三島徹也（研究員・関西大学大学院会計研究科教授） 「デジタル・プラットフォーム取引に関する法規制と参加者間の法律関係」 ○研究会 （１）2021 年 12 月 18 日 15：00～17：00、atZOOM によるオンライン開催 ・小町守（ゲスト講師・東京都立大学教授） 「深層学習によるマルチモーダルな言語理解と言語生成の最先端」 （２）2022 年 2 月 21 日 16：00～18：40、atZOOM によるオンライン講演 ・松田学（ゲスト講師・松田政策研究所代表） 「情報技術がもたらすポストコロナ経済へのパラダイムシフト」 （３）2022 年 3 月 7 日 14：00～18：40、at 東京センターでの講演 ・永井玲衣（ゲスト講師・立教大学・上智大学非常勤講師） 「哲学プラクティスの実践とその体験について」 ・松浦和也（ゲスト講師・東洋大学准教授） 「Authenticity と工学の倫理」 ○講演（学会・研究会） （１）　2021 年 12 月 11 日　日本通訳翻訳学会関西支部第 57 回例会 ・高橋秀彰「機械翻訳と中上級レベルの英語学習者のパーフォーマンス比較から考える外国語教育政策の可能性」
	著書	該当なし
	分担執筆・論文等	○論文（査読付き） ・宗岡徹「コンピュータ化に伴う地方自治をめぐるパラダイムの変換とその対応」『地方自治研究―日本地方自治研究学会誌』Vol.36. No.1、2021 年 5 月 ○経済・政治研究所研究双書（2022 年 3 月） ・宗岡徹「コンピュータ化に伴うパラダイム変化とその対応」～簿記システムを例にして～ ・高橋秀彰「ドイツ語正書法改革に伴い生じた二重形式のコーパス研究」 ・三島徹也「デジタルプラットフォーム取引における私法上の法律関係―仲立契約からの考察を中心として― ・山口聡一朗「コンピュータによる医用画像診断の発展」 ・植原亮「人口知能・科学・人間のトリロジーの将来」
	新聞・メディア掲載その他	該当なし

	調査等	・第 40 回 日本医用画像工学会大会 10 月 13 日～10 月 15 日 神奈川県 慶応大学 日吉キャンパス協生館 医用画像分野における A 最新動向について研究調査を行う 【(1)個人研究費】(山口) ・ MWE2021 マイクロウェーブ展 (電子情報通信学会・総務省) 11 月 24 日～11 月 26 日 神奈川県 パシフィコ横浜 展示ホール 情報通信分野における AI 最新動向について研究調査を行う 【(1)個人研究費】(山口) ・ 第 69 回 応用物理学会 春季学術講演会 3 月 24 日～3 月 25 日 神奈川県 青山学院大学 相模原キャンパス 応用物理分野における AI 最新動向について研究調査を行う 【(2)科学研究費】(山口)
活動内容の総括	○科学研究費の獲得 昨年度の研究活動報告書において「科研費（萌芽研究）にメンバー全員で応募したが採択されなかった」旨の報告を行ったが、2021 年 7 月になって、採択の旨の連絡があった。 研究種目：挑戦的研究（萌芽） 課題番号：２１Ｋ１８３５１ 研究課題名：コンピュータ化によるパラダイム変化とその対応 事業期間：令和 3 年度～令和 5 年度 当該科研費の獲得は、経政研における研究活動の成果をもとに獲得したものである。 ○コロナウィルス感染症の影響 コロナウィルス感染症の流行（第 5 波）の期間が夏休みの期間と重なり、国内外の外部の有識者に対するヒアリングができなかった。その後、日本においては流行が沈静化したものの海外では必ずしも沈静化していない状態が続き、2022 年になってから、オミクロン株による感染症が流行（第 6 波）し、国内で 3 回の研究会を実施したものの、海外でのヒアリングは実施できなかった。	
次年度に向けての計画・展望	2022 年度は、経済・政治研究所の研究班として実質 4 年目で最終年度となる。また、科学研究費は 2 年目となるが、12 月以降、国内での外部ヒアリングを行ったのみで、企図していた海外の有識者に対するヒアリングや研究会を行うことができなかった。幸い、科研費は繰り越しが認められているので、今年度は、コロナウィルス感染症の状況を見ながらではあるが、国内の有識者へのヒアリングのみならず、海外へのヒアリングを行うようにしたい。 その結果、コンピュータ化とパラダイム変化との関係、特に、コンピュータを前提としたコンピュータシステムと手書きシステムのコンピュータ化とパラダイム変化の関係に係る一般理論の構築に係る議論を深めていきたいと考えている。 また、それぞれの専門分野における研究を進化させるとともに、新しい学際的な研究分野として横展開を図っていくようにしたい。そのために、様々な学会において発表するとともに、専門部会等の募集があった場合に他の先生方を巻き込んで応募する等の活動を行うとともに、より範囲の広い科研費（例えば科研費 B 等）への応募も検討したい。	